

6 かんきょうにやさしい農業^{のうぎょう}

農業は、自然^{しぜん}を活用^{かつよう}した産業^{さんぎょう}です。土や水などの自然かんきょうに働きかけて、ゆたかなめぐみ^うを受けているのです。しかし、しゅうかく^{はたら}を多くしようとして、農薬^{のうやく}や化学肥料^{かがくひりょう}を使いすぎると、自然をこわしてしまいます。

これからは、人やかんきょうにやさしい農業を進め^{すす}ていかなくではありません。鳥取県^{とっとりけん}では、牛などのふんや^ひにようからつくられるたい肥^{はたけ}を田や畑^{のうさくもつ}に入れて、農作物^{そだ}が育ちやすい土づくりを行い、化学肥料にたよりすぎない農業をめざしています。また、農薬^{しゅう}の使用をへらす努力^{どりよく}もしています。



①牛：牛がえさを食べ、ふんをします。



②たい肥センター：
ふんからたい肥をつくります。



④さいばい：野菜^{やさい}や家畜^{かちく}のえさを
つくります。



③たい肥^{さんぷ}散布：田や畑にたい肥を入れます。

紙を利用した米づくり

米の紙マルチさいばいは、田を紙でおおって米をつくる^{ほうほう}方法で、鳥取県で考えられました。近年、鳥取県内では、^{ことうら}琴浦町、^{くらよし}倉吉市などで約8ヘクタールほど^{とく}取り組まれています。

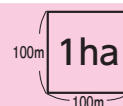
せん用の^{たうえき}田植機で、^{こし}古紙をリサイクルしてつくった紙を田にしきながら、イネの^{なえ}苗を^う植えていきます。紙で田の^{ひょうめん}表面をおおい^{にっこう}日光をさえぎることで、農薬を使わずに^{そう}ざっ草が伸びるのをおさえることができます。紙は、約50日から60日で自然にとけてしまいますが、イネはその間に大きくなり、ざっ草にまけずに育っていきます。



琴浦町の紙マルチさいばい

1ha(ヘクタール)

=10,000m²(100m×100m)



鳥取県では、農薬や化学肥料を3年以上^{いじょう}使わないでさいばいした^{のうさんぶつ}農産物を「^{ゆうき}有機農産物」として^{みとめて}みとめています。また、有機農産物を使って^{かこう}加工した^{しょくひん}食品も「有機加工食品」として^{みとめて}みとめています。



鳥取県では、ふつうのさいばいにくらべて農薬や化学肥料を^{いか}半分以上にへらしてつくる農産物を「^{とくべつさいばい}鳥取県特別栽培農産物」として^{みとめて}みとめています。



鳥取県特別栽培
農産物のマーク